

1. 歯科衛生学科の教育の成果と課題

○ 対象者概要

回答者の9割以上が現在も就業しており、7割強が静岡県内で活躍していた。卒後に学士号・修士号の学位を取得した者は約1割、学会認定衛生士など専門分野に関連する資格を取得した者は5%強であった。資格や専門性を活かしていると回答したのは8割強、また3割が学会や研究会等自主的に勉強会に参加しており、卒後も生涯学習に努めている実態が明らかとなった。

○ 歯科衛生に関する専門的知識（座学）

本学で受けた教育を振り返って、「歯科衛生に関する専門的知識（座学）」が「身についた・十分身についた」と回答した者は、93.1%であった。講義科目については高い学修効果を反映したものと考えられる。

○ 歯科衛生に関する手技（技能）・能力

本学で受けた教育を振り返って、「身についた・十分身についた」と回答した者は、「予防処置の手技（技能）」は79.7%、「歯科診療補助の手技（技能）」は78.8%、「歯科保健指導の技能」は84.3%、「患者（対象者）とのコミュニケーション能力」は67.8%、「同業種・他職種とのコミュニケーション」63.6%、「論理的思考力」74.7%、「問題解決能力」は70.9%、「歯科衛生士としての倫理観や使命感」89.9%、「歯科衛生を的確に実践する能力」80.2%、「キャリア形成に関する知識」は64.1%であった。総じて卒業生の6割以上が学修効果を感じているが、講義に比べて技能系の教育（実習科目）に改善の余地があることが明らかとなった。

○ 歯科衛生士としてのあり方や実績についての自己評価

「臨床面において卒後も熱心に取り組み十分な実績を上げている」と回答した者（とてもそう思う・ややそう思う）は75.6%、「臨床以外の面（後進の指導、職能団体での活動、地域での啓発活動）で熱心に取り組み十分な実績を上げている」と回答した者（とてもそう思う・ややそう思う）は50.7%、「歯科衛生の勉強や最新の知識を得続けている」（とてもそう思う・ややそう思う）は63.1%であった。多様な形で地域医療や社会に職責を果たすための努力を継続し、その成果を上げている者が多いと言える。

2. 今後の教育の質の向上のために改善できる点

歯科衛生の三大業務に関する技能系、また論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力を向上するための教育改善を図る必要性が浮き彫りとなった。歯科衛生学科では、歯科保健指導に関連する科目を系統的にかつ網羅的に検証した結果をふまえ、大幅なカリキュラム改正をすでに自発的に行った。新カリキュラムは令和4年度入学者より適用を開始したところである。さらに論理的思考力や問題解決能力を強化するため、令和3年度から実践実習をリニューアルした。歯科衛生ケアプロセスを基盤とし、シミュレーションから実施まで段階的修得をめざして新規に創設した。これらの教育改善に関する学修効果を今後検証する予定である。実践力のある歯科衛生士の育成にこだわりたい。

また生涯を通じた学修機会（自己学習、職場における継続教育、専門職団体及び学会による各種研修、大学院、認定歯科衛生士等）の紹介を含め、キャリア形成のための教育を検討する必要がある。